

地域包括ケアネットワーク No.43

瀬戸内市における地域包括ケアの歩み

邑久医師会 瀬戸内りょうま医院 原 雅弘

瀬戸内市での地域包括ケアは、平成25年6月に瀬戸内市在宅医療・福祉・保健連携推進協議会が設置され、第1回、第2回推進全体研修会が開かれたことについて、前回の「地域包括ケアネットワークNo.15」で紹介報告されている。瀬戸内市は、県南東部に位置しているが、高齢化率は全国平均より高く、市中心部が26%である一方、市南部45%、東部50%という高い高齢化の実情がある。

瀬戸内市では「笑顔で長生きできるまち」の実現に向けて、平成27年「瀬戸内市地域包括ケア実行計画」が策定された。この計画では、①在宅で安心して最期を迎えられる仕組みづくり、②認知症対策、③糖尿病対策、④がん対策を重点課題とし、医療、介護、福祉、保健、行政等の多職種による地域啓発イベントの開催や、専門職の研修・意見交換等も実施している。

第3回地域包括ケア推進全体研修会が、平成27年12月に開かれ、岡山赤十字病院緩和ケア科副部長・渡辺啓太郎先生に、「がん診療と緩和医療～医療連携を通して」の基調講演をして頂いた。また、「がんとともに生きる、家族、医療、介護の立場」というテーマで実践発表がなされ、緩和医療に対して専門職としてどのように関わっていくか、地域とともに何ができるか等、それぞれの立場で考える機会となった。

在宅医療多職種連携研修会では、「高次脳機能障害～」「緩和ケア～」「介護保険制度～」「パーキンソン病～」「認知症～」「高齢期の食べる機能～」等をテーマに年4回開催している。高齢者入所施設合同研修会では「笑顔で長生き、利用者のQOL向上のために～」を開催、多職種の意見交換・交流の場「ケアカフェせとうち」を年3回開催し、多職種連携・協力が深まってきている。専門職版「ケアネットせとうち通信」の発行で、さらに多くの専門職の方々に伝えられるようにしている。

地域住民への啓発活動については、市民講座「在宅医療・介護推進フォーラム」の開催や、小地域に出向いて福祉サロン、小地域ケア会議等で出前講座を開き、また、地域包括ケアシステム研修会の開催をしている。さらに市民版「ケアネットせとうち通信」を年3回発行し、地域包括ケアシステムの普及につとめている。

さて、瀬戸内市に、新市民病院が平成28年10月に開院した。一般病床110床のうち、地域包括ケア病床を16床に増床、治す医療に加えて支える医療を重視し、在宅療養支援連携連絡会の開催、市民病院医療連携担当者会議、在宅医療・地域福祉連携担当者会議等を行っている。瀬戸内市は病院内にある行政のトータルサポートセンターを窓口として、「笑顔で長生きできるまち瀬戸内」を目指し、総合的医療介護福祉の多職種連携を密にして、効率的で質の高い24時間対応の医療介護地域包括ケアシステムの構築に向けて努力を傾けている。